

スウェーデン中銀、マイナス金利解消

ポイント① 約1年ぶりの利上げ

12月19日、スウェーデンの中央銀行であるリクスバンクは政策金利であるレポ金利を-0.25%から0%へ引き上げることを決定しました。実施は2020年1月8日付となります。利上げの決定は約1年ぶりです。これにより、スウェーデンで2015年2月より続いてきたマイナス金利が解消されることとなりました。

今回の利上げは市場で広く予想されており、大きなサプライズではなかったようです。

ポイント② 通貨安への対応

通貨スウェーデン・クローナは2008、2009年のリーマン・ショック時に急落した後、2012年後半までユーロに対して上昇しました。しかし、スウェーデン金利が引き下げられ、ユーロ圏との金利差が縮小する過程で下落し、2018年12月の利上げ決定後も下げ止まりませんでした。今年9月のユーロ圏の利下げ後、やや反発していますが、それまでの通貨安によってインフレ率が押し上げられ、ユーロ圏とのインフレ率の格差が開きました。今回の利上げは、こうした通貨安の影響に対応したものと考えられます。また、住宅関連の家計債務が積み上がったことも、マイナス金利長期化の副作用として意識されたようです。

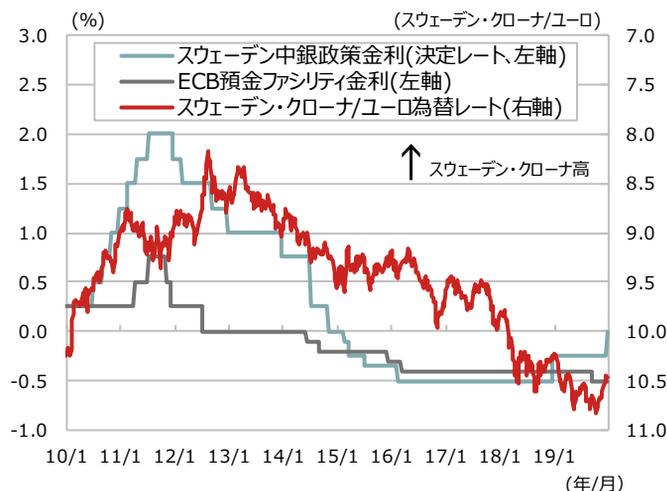
ポイント③ 失業率の上昇

ただ、利上げは継続的なものにはならないと予想されます。スウェーデンの景気は鈍化しており、失業率は2018年初めに底をつけた後、上昇に転じています。

今回の利上げによってスウェーデン・クローナがユーロなどに対して下落する動きが止まれば、景気への配慮などから、リクスバンクは当面さらなる利上げを見送るものと思われます。

図1：スウェーデンとユーロ圏の政策金利と為替相場

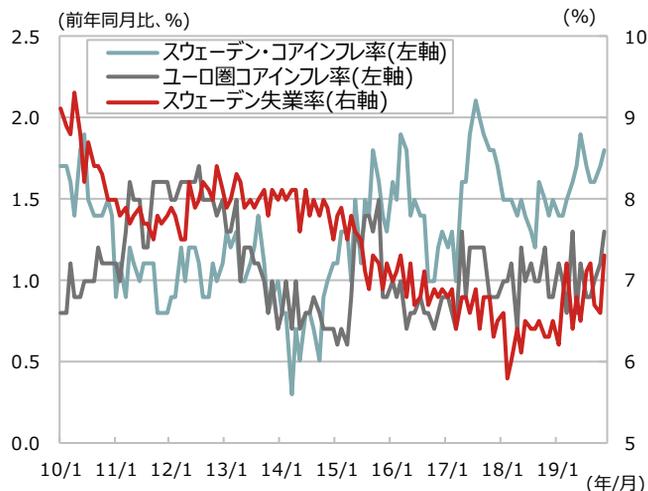
期間：2010年1月1日～2019年12月20日、週次



(注) スウェーデンの政策金利はレポ金利、政策決定日ベース。
為替レートは、12月20日の日本時間8時半頃の値。
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：スウェーデンの失業率とインフレ率

期間：2010年1月～2019年11月、月次



(注) スウェーデンのコアインフレ率はエネルギーを除く。ユーロ圏のコアインフレ率はエネルギー、食品、アルコール飲料、たばこ製品を除く。
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

1月2日 スウェーデン製造業PMI(購買担当者景気指数、12月)
1月15日 スウェーデン消費者物価指数(12月)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。